

社会倫理研究所の歴史

研究所の歩み

一九八〇年五月二十六日 南山経済倫理研究所
設立される。

一九八一年六月 社会倫理研究所に名称変更、
現在に至る。

設立趣旨

一九八〇年五月十三日開催の大学評議会において、一九八〇年五月二十六日の開学記念日を期して、南山大学における三番目の研究所、南山経済倫理研究所の設立が承認された。

近代における先進諸国の目覚ましい経済発展は、人類に「豊かさ」をもたらすと同時に、自然破壊、環境汚染、資源枯渇など自然の「貧しさ」、人間の「貧しさ」が見られる世界をもたらした。そこには倫理的立場が改めて問われ、価値判断領域を経験科学の範囲に取り入れなければ経済現象を十全には解明できない時代が現出していた。

もともと日本の経済・経営活動の伝統の中にある倫理性に関心を持ち、同時にキリスト教価値観・倫理観の日本への紹介・導入に熱意を持つヨハネス・ヒルシュマイヤー学長(当時)が、この社会の現状に鑑み、南山大学の建学の精神に直接連なって、経済社会の解明に努力する重要性と意義を提案したのが本研究所以設立の動機であり設立の目的である。

研究所の目指すところは、このように、人間の尊厳の理念に基づき産業社会における経済・経営の諸問題を研究し、これら諸問題に対する社会的関心を喚起し、かつ普及することにある。そのための関連文献・資料の収集、関連する研究者の養成を意図するものであった。ここから新しい倫理の認識が生まれることが期待されている。

〈組織〉

構成

研究所の組織は、研究所長、研究所員(第一種、第二種)、客員研究所員、研究員、非常勤研究員、助手、研究補助員、事務員を以て構成する。そのほかに評議員を置く。

構成メンバー

研究所長(事務取扱を含む)

森 茂也(一九八〇年五月〜八三年三月)
阿南成一(一九八三年四月〜九一年三月)
松山昌司(一九九一年四月〜九三年九月)
澤木勝茂(一九九三年一〇月〜九七年三月)
高橋広次(一九九七年四月〜二〇〇二年三月)

小林傳司(二〇〇二年四月〜〇五年三月)
澤木勝茂(二〇〇五年四月〜現在)

第一種研究所員

松山昌司(一九八一年四月〜八三年三月)
阿南成一(一九八三年四月〜九二年三月)
家本博一(一九八一年四月〜九八年三月)
山田 秀(一九八六年四月〜現在)

*一九九四年九月から九五年七月までウィーン大学カトリック神学部(倫理学及び社会科学研究所)客員教授、九四年九五年冬学期ゼミナール担当。

野田宣雄(一九九七年四月〜二〇〇〇年三月)
オズワルド・カバラル(一九九七年四月〜二〇〇〇年三月)
奥田太郎(二〇〇三年四月〜現在)
マイケル・シーゲル(二〇〇三年一〇月〜現在)

第二種研究所員
在)

ヨハネス・ヒルシュマイヤー(一九八〇年五月〜八三年六月)
 森 茂也(一九八〇年五月〜九四年三月)
 松山昌司(一九八〇年五月〜八一年三月、八三年四月〜九三年九月)
 細井 卓(一九八二年四月〜八九年三月)
 桜井健吾(一九八五年四月〜八七年三月、九七年四月〜二〇〇三年三月)
 澤木勝茂(一九八九年四月〜二〇〇一年三月、二〇〇五年四月〜現在)
 中矢俊博(一九九四年四月〜二〇〇六年十月)
 高橋広次(一九九四年四月〜二〇〇二年三月)
 土田友章(一九九五年四月〜二〇〇三年三月)
 野田宣雄(二〇〇〇年四月〜〇四年三月)
 小林傳司(二〇〇一年四月〜〇五年三月)
 加藤隆雄(二〇〇二年四月〜〇六年三月)
 林 雅代(二〇〇二年四月〜現在)
 鈴木宗徳(二〇〇二年四月〜現在)
 川崎 勝(二〇〇二年四月〜〇六年三月)
 坂下浩司(二〇〇三年四月〜現在)
 丸山雅夫(二〇〇三年四月〜現在)
 杉原桂太(二〇〇五年四月〜現在)

客員研究所員

野尻武敏(一九八七年四月〜九七年三月)
 阿南成一(一九九二年四月〜九六年三月)
 橋本昭一(一九九三年四月〜二〇〇〇年三月)
 アレクサンダー・ウカシェヴィッチ(一九九三年一〇月〜九四年三月)
 森 茂也(一九九四年四月〜九八年三月)
非常勤研究員
 原田哲史(一九九六年四月〜二〇〇二年三月)
 島本美智男(一九九九年四月〜現在)
 橋本昭一(二〇〇〇年四月〜〇四年三月)
 増田正勝(二〇〇〇年四月〜〇四年三月)
 松下 洋(二〇〇〇年四月〜現在)
 マイケル・シーゲル(二〇〇一年四月〜〇三年九月)
 小川由美子(二〇〇二年四月〜現在)
 伊勢田哲治(二〇〇二年四月〜現在)
 戸田山和久(二〇〇二年四月〜現在)
 瀬口昌久(二〇〇二年四月〜現在)
 坂下浩司(二〇〇二年四月〜〇三年三月)
 小林傳司(二〇〇五年四月〜現在)
 武者小路公秀(二〇〇六年四月〜現在)
 山田哲也(二〇〇六年四月〜現在)

川崎 哲(二〇〇六年四月〜現在)
 研究員

杉原桂太(二〇〇四年四月〜二〇〇五年三月)
 中野涼子(二〇〇六年四月〜現在)
 研究生
 山田 秀(一九八二年四月〜八五年三月)
 評議員

阿南成一(一九九六年四月〜二〇〇〇年三月)
 猪木武徳(一九九六年四月〜二〇〇二年三月)
 野尻武敏(一九九七年四月〜二〇〇三年三月)
 森 茂也(一九九八年四月〜二〇〇二年三月)

社会倫理研究所活動

1 研究活動

所員研究会

研究所の最初の研究テーマが「技術と倫理」と決定され、一九八五年から九一年までその時々々のテーマのもとに所員研究会が持たれた。各種研究会(一九八五年四月から九二年三月)
 ①法哲学研究会「五回」
 ②経済哲学研究会「一回」
 ③生命倫理研究会「一回」

- 定例研究会・研究会（一九九二年四月）
二〇〇六年十二月）
- 前記各種研究会を総括する形で、定例研究会が一九九二年から開始された。現在まで計七三回実施されている。
- 懇話会（一九八〇年五月～二〇〇六年十二月）
現在まで七六回実施されている。
- シンポジウム
- 「現代社会における技術と倫理」一九八五年十月
- 第二回シンポジウム「現代社会における技術と倫理」一九八六年十月
- 第三回シンポジウム「現代社会における技術と倫理―著作権意識を巡って―」一九八七年十月
- 第四回「現代社会における技術と倫理―技術と倫理―」一九九〇年十一月
- 「現代社会とキリスト教社会論」一九九七年三月
- 「現代社会とキリスト教社会論」第二回シンポジウム、一九九九年十一月
- 「社会回勅の百年―『労働者の境遇』（一八九一年）から『新しい課題』（一九九一年）まで―」（第三回シンポジウム「現代社会とキリスト教社会論」、二〇〇一年十二月）
- 「大学教育の倫理」一九九八年十二月
- 「家族と世代間倫理」二〇〇〇年十二月
- 「誰のための国際秩序か？」二〇〇六年九月
- 国際シンポジウム、ワークシヨップ
- 第三回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジウム「変動する世界の中の『共同善』」一九九五年九月（ヨハネス・メスナー協会日本支部主催、南山大学社会倫理研究所共催）
- 第四回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジウム「社会秩序における正義」ブリクセン（イタリヤ）で一九九七年九月、所員による二報告、客員研究所員の座長参加。
- 第五回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジウム「国際法秩序と国際法倫理学」ヴィーン一九九九年、所員による一報告。
- 第六回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジウム「経済活動―ヨハネス・メスナーの理解による倫理的要請」ヴィーン二〇〇一年、所員、非常勤研究員、評議員による三報告。
- 第七回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジウム「ヨーロッパの挑戦として安全と平和―パルチエム・イン・テリスの光に照らしてみたいキリスト教軍人の貢献」ヴィーン二〇〇三年十月、所員による一報告。
- 年十月、所員による一報告。
- 第六回「倫理への勇氣」フェルトキルヒ（オーストリア）一九九八年、所員による二報告。
- 「和解・記憶・正義―真実究明委員会の法と倫理」二〇〇二年六月（IVR日本支部及び愛知法理研究会との共催）、非常勤研究員による一報告。
- 「人間の尊厳の原理」二〇〇五年九月（IVR日本支部及び愛知法理研究会との共催）所員による一報告。
- 「九・一一事件以降の世界における公平と平和を求めて―日本とオーストラリアのためのオランダタイプを構想して」二〇〇五年九月（ラトロップ大学社会科学部、及び南山大学アジア太平洋研究センターとの共催）、所員による一報告。
- 南山大学社会人教養講座
一九八四年から九二年まで、計八回実施した。
- カトリック社研中部セミナー
一九八八年から二〇〇一年まで、第八回から第二五回まで計一八回共催した。
- 社会倫理研究奨励賞（仮称）
野田宣雄京都大学名誉教授（元社会倫理研究

所第一種研究所員)から頂戴した寄附金をもとに、わが国における社会倫理の普及に貢献のあつた若手研究者を支援するための奨励制度を樹立するため、現在研究所内にワーキング・グループを設けて原案を策定している。

2 出版活動

機関誌発行(総目次については、本紀要別掲載)

『南山社会倫理研究所論集』(第一号一九八五年〜第六号九一年)。共通論題「現代社会における技術と倫理」。

『社会倫理研究』(第一号一九九二年〜第四号九六年)。共通論題「カトリック社会論」。

『社会と倫理』(第五号一九九七年〜第二十号二〇〇六年)。

*尚、一九九七年九月二十三日、高橋広次、山田秀両名のカトリック社会科学中央研究所(KSZ)訪問の折、ラウンシャー所長より、叢書「教会と社会」の包括翻訳許諾権を授与される。条件は、公刊物をその都度二冊贈呈すべきことのみ。

南山大学社会倫理研究叢書

研究叢書第一巻 松山昌司著『社会科学と社会

倫理』一九九四年。

第二巻『変動する世界における共同善』一九九七年。

第三巻 高橋広次編『現代社会とキリスト教社会論』一九九八年。

『社会問題と倫理』ブックレット

ブックレットI『社会問題としての宗教―日本の経験』一九九六年。

ブックレットII『統合的人間教育を考える』一九九七年。

ブックレットIII『生命医学の進展とわたしたちの生死』一九九八年。

蔵書目録

『南山大学社会倫理研究所蔵書目録』一九九二年。

『南山大学社会倫理研究所蔵書目録 補遺版』一九九七年。

『南山大学社会倫理研究所「松山学術文庫」蔵書目録』一九九五年。

その他の研究所出版物

南山大学社会倫理研究所編『著作権問題の研究と調査―著作権法の歴史と現代的課題に関する研究と複製機器の利用と著作権意識に関するアンケート調査―』一九八九年。

南山大学社会倫理研究所編『著作権問題の研究と調査―著作権法の歴史と現代的課題に関する研究と複製機器の利用と著作権意識に関するアンケート調査―(資料編)』一九八九年。

『アウグスチノ松山昌司教授遺稿集』一九九四年。

マイケル・シーゲル『憲法第九条に関する一考察―日豪合同ワークショップ(二〇〇五・九・一二―一五)の討論を受けて―』二〇〇六年。

ミカリス・マイケル、ラリー・マーシャル、マイケル・シーゲル『アジア太平洋の安全保障―九・一一事件以降』二〇〇六年。

Michael T. Seigel, *Some Considerations Regarding Article 9 of the Japanese Constitution*, 2006.

3 広報活動

ホームページ

二〇〇四年十一月一日開設。懇話会や研究会など研究所活動の案内を随時提供。年数回オンライン・ニューズレターを発信し、懇話会や研究会の要約を公表し、テブ起こし後に適宜HTMLもしくはPDFの形式にて閲読できるようにしている。

「こんな本・あんな本」コーナーでは一般の注目から洩れ落ちがちでも面白そうな書物を紹介している。

△図書館▽

南山大学図書館南山大学社会倫理研究所図書館分室

本図書館は、(一)ヘルダー文庫・新書二八〇冊中約一八五〇冊、(二)『時の声』(Stimmen der Zeit) 第一巻(一八七二年)～第一九四巻(一九七六年)、(三)『新秩序』(Die Neue Ordnung) 一九四七年以降現在までの全冊、(四)『ヘルダー通信』(Herder-Korrespondenz) 一九四九年(第四巻)以降現在までのほぼ全巻を所蔵している。

松山学術文庫

副学長、第二種研究所員であった故松山昌司教授所蔵の三八一九冊を所蔵。一九九四年十月二十六日に開設された。経済学・社会科学方法論に特色が見られる。

水波学術文庫

故水波朗九州大学名誉教授の七四九一冊を所蔵。二〇〇四年十二月六日に開設された。法哲

学、トマス主義研究書に重点が置かれている。二〇〇六年三月末日現在の収蔵冊数は約二二〇〇〇冊である。(澤木勝茂)